

ごごみ日和69

特集：広がれ！食がつかなく「ありがとう」の輪
～京都にフードバンクを根付かせたい、セカンドハーベスト京都の挑戦～
セカンドハーベスト京都

ごみ減会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方？」:

京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会さん

Hand in Hand：鹿肉料理開発で鹿被害削減！

～京都光華女子大学 京Vしかミーツのチャレンジ～

なごみ日和：京野菜に込められた願い KBS京都アナウンサー 海平 和

京都市ごみ減量推進会議 HISTORY4：

2Rで一歩先行く、ごみ減量「もっぺん」の功績



地域活動レポート：地域の財を活かし、楽しく、特色ある活動を広げたい

～中京区地域ごみ減量推進会議～



家庭や企業から寄せられた食品を、いま必要とする人へ。
私たちは、優しい気持ちと一緒に届けています。
お届け先で「ありがとう」の笑顔がたくさんもらって、
その日は最高に幸せな一日になります。
フードバンク、それは食がつかなく「ありがとう」の輪

ごみにまつわるこの数字なあに？

**燃やすゴミのうち
約1割も！**

答えはWebへ！

※トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。

写真 セカンドハーベスト京都

「ごごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、
京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。
最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとって ごみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

🔍 🔍



広がれ！

食がつなぐ「ありがとう」の輪

～京都にフードバンクを根付かせたい、セカンドハーベスト京都の挑戦～

セカンドハーベスト京都 代表
澤田 政明氏

皆さんは、「資源の再利用」と聞くとどのようなものを思い浮かべるでしょうか。プラスチック製の容器包装や紙類などは、分別回収を通して身近な「資源」として感じられる機会も多いですが、私たちの暮らしに欠かせない「食品」についてはどうでしょうか。日本国内では、過剰生産や包装の印刷ミス等により規格外となったり、家庭で食べきれないなどを理由に、まだ食べられるのに廃棄される食品が年間632万トン（平成25年度推計）もあると言われています。これは、国内のコメの生産量に匹敵し、貴重な資源であった食品が膨大なエネルギーを使って処分されているこの「もったいない」現状に、多くの機関や専門家からは警鐘が鳴らされています。これらのいわゆる「食品ロス」を少しでも減らすために、製造・流通システムを見直したり、家庭での買い過ぎや食べ残しを防ぐ工夫を継続することは第一ですが、食品ロスにせず社会資源として活かす「フードバンク」の取組にも注目が集まっています。様々な事情から食費を削らざるをえない人々の生活を、食品の提供を通して支援する「フードバンク」のいまについて、セカンドハーベスト京都代表の澤田政明さんにお話を伺いました。

フードバンクとの出会い

日本で、法人化されたフードバンクの活動が産声を上げたのは2002年。セカンドハーベスト・ジャパン（東京）によって、「まだ食べられる食品を必要とする人々へ届ける」という画期的な仕組みが紹介されました。この活動が全国的に知られるようになったのは、2007年に「日経スペシャル ガイアの夜明け」というドキュメンタリー番組

で「余った食のゆくえ～消費期限、もうひとつの物語～」と題された番組が放映されたことがきっかけでした。澤田さんもこの番組をご覧になり、強い衝撃を受けられたと言います。その頃は仕事が忙しく、フードバンクへの関心はあっても、活動に参加できないもどかしさを感じておられました。その後、ご自身の生活を見直す機会を得たことや、2011年におきた東日本大震災が転機となり、社会貢献としてのフードバンクの活動に専念することになりました。

セカンドハーベスト京都の挑戦

いくつかの団体でフードバンク事業の運営に携わった澤田さんは、昨年12月にセカンドハーベスト京都を設立。関係機関と協力しながら、母子生活支援施設や自立援助ホーム等の福祉施設、生活困窮者支援団体などに定期的に食品の提供を行っています。さらに今後は、他に様々な事情で食事が満足にできない人々にも、きめ細かく支援の手を差し伸べたいと考えておられます。そのためには、関係機関との支援体制の強化が急がれ、また、多くの人にフードバンクの活動を正しく知ってもらい、食品提供や寄付、ボランティアの裾野を広げることも重要です。現在は、設立メンバーに加え、30名を超えるボランティアスタッフに支えられていますが、運営を円滑に行うためには、常勤

職員の存在も必要です。やるべきことはたくさんあり、京都市内でのフードバンクの取組はこれから本番です。支援を必要とする人へ、命を守るセーフティネットとしての役割を担えるよう、セカンドハーベスト京都の挑戦は続きます。



寄付をしてくれた方の気持ちも一緒に届けます

子ども食堂^{*1}の誕生

セカンドハーベスト京都のもう一つの事業は、京都の各地に「子ども食堂」の活動を普及させるための取組や、新しく「子ども食堂」を始められる方々への立ち上げ支援。この「子ども食堂」を通じて、いろいろな困難を抱えた子どもたちやその保護者が地域の人たちとつながって、孤立しない、させない、そして温かいコミュニケーションの場がすべての小学校区にできれば、との思いで取組を進めておられます。

『セカンドハーベスト京都は各「子ども食堂」にとっては後方支援がその任であると考えていますが、その地域の人たちだけで「子ども食堂」が自然発生的に増えていく地域と、なかなかそのようにはならない地域があります。そこで、地域の方々との協力し、私たちが運営の軸となる場合もあります。』

そのうちの一つ、伏見区のある食堂では8月、2歳から70歳代まで16名の参加があり、子育てのこと家庭のこと

など、参加者同士が食事を通して語りました。現在は毎月1回、休日のお昼に開催していますが、平日の夕方にあつたら嬉しいという声もあり、地域の期待に応えられるよう検討を進めています。一番の課題はスケジュールが合うスタッフが見つかるかどうかだと澤田さんは仰います。食堂を訪ねる人にも、協力する人にも喜んでもらえる運営を目指し、「人との繋がりを大事に、そして謙虚な気持ちを忘れずに、これからも活動を広げていきたい」と熱い志を語って下さいました。



子ども食堂で、みんなでわいわいとおにぎりを作りました

今、必要とする人に、届けられる仕組み作りを目指して

近年、フードバンクの活動が注目される背景には、昨年4月に厚生労働省によって生活困窮者自立支援制度がスタートしたことも挙げられます。これにより、フードバンクの立ち上げが推進され、昨年11月には全国フードバンク推進協議会^{*2}が発足。全国に40を超えるフードバンク団体（2015年度末時点）の活動指針となると共に、行政との連携や活動内容の質を高める試みが始まっています。また、京都府では今年7月から京都府食品ロス削減府民会議が開始、学識経験者や流通・小売業などの企業や商工会、府民らが参加し、食品ロスを減らす方法が検討されています。セカンドハーベスト京都もこの府民会議に参加しており、企業と福祉、更には環境課題を繋ぐ立場として様々な提言が期待されています。

フードバンクに寄せられる食品は、全体の食品廃棄量から見るとまだまだ少量にとどまっています。何よりも過剰な食品を生まないことが一番ですが、今の食品流通の枠組みの中で生活する限りは、それぞれの市町村でフードバンクの仕組みを確立させ、まだ食べられる食品を有効活用できる社会の仕組みも作らなくてはなりません。それには、法整備も不可欠です。澤田さんは、「支援を必要とする人の正確な情報、そして食品を寄贈してくれる企業や個人の輪、それらを繋ぐ行政と私たちフードバンクの存在。どれ一つ欠けてもうまくいきません。私は、京都市にもこの仕組みを作りたい。そのために、走っています。」点と点を丹念に結んでいくことで大きな面となり、より多くの人々を支えることができる。それを実践されているセカンドハーベスト京都の活動意義は計り知れません。小さな一歩が集まると、社会はより良く変えられる。そんな希望を抱かせてくれる素敵な出会いでした。

●セカンドハーベスト京都 <http://www.2hkyoto.org/>

住所 ▶ 〒600-8127 京都市下京区梅津町83-1

ひと・まち交流館京都2F 京都市市民活動総合センター内

TEL ▶ 075-343-7250

E-mail ▶ info@2hkyoto.org

^{*1} 「子ども食堂」…子どもが一人でも安心して利用できる食堂や居場所として、開設が広がっている。

^{*2} 「全国フードバンク推進協議会」…現在17の団体が参加しており、それぞれの地域が抱える課題や成果を共有し、国内のフードバンク活動の裾野を広げ、更なる発展を目指しています。

●10月30日（日）に京エコロジーセンターで開催する「食べものどうなるの？～フードロスと未来の食環境～」でも活動をご紹介します。詳細はイベント名で検索してください。



松村香代子（平成28年8月21日取材）



20年伝え続ける 変わらぬ思い

毎月一回幹事会を開き、活動を進めている。
長年の功績を称えられ、近年は、いくつもの賞を受賞。

～京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会の20年のあゆみ～

京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会

強い日差しが照りつける8月19日、伏見区の中山児童館では、今年20周年を迎える『京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会』（以下、『めぐるくん推進友の会』）による紙すき教室が開催され、子どもたちの楽しそうな声が響きます。

「増えたごみを減らしたい」という思いが原動力となり、ここまでやってきました」と言う会長の山内寛さんに、設立当初からこれまでの活動についてお話を伺いました。

キーワードは「ごみ減量」

平成8年に設立した『めぐるくん推進友の会』は、平成6年度から約10年の間に研修を終えた約800名の『ごみ減量推進員』OB、OGによる活動の場として発足しました。設立当初は、家庭で使用されているごみ袋の色や、トイレトーパーの古紙配合率などの調査を行うことが主な活動内容でしたが、活動を進めるなかで“市民によるごみ減量”に向けて、啓発活動を行う重要性を実感し、行政や民間企業ではできない草の根的な活動を続けてこられています。

「3R」から「2R+1R」へ

設立から現在までの20年間では、京都市のごみ事情も大きく変わってきています。活動をはじめた数年が経過した平成12年度、京都市のごみ量は82万トンとなりピークを迎えます。その後、家庭ごみの有料指定袋制、プラスチック製容器包装の分別回収、業者収集ごみ透明袋制などの取組が始まったことや、市民や事業者の理解・協力が深まってきたことなどから、昨年（平成27年度）は44万トンにまで減少しました。京都市は、

ほぼ同時期に設立された、『京都市ごみ減量推進会議』との関わりも深く、市内各地で開催されるイベントに、協働で啓発ブースを出展することも多くあります。啓発ブースでは、より幅広い年代の方に楽しんでもらうため、パネルの展示のほか、クイズやエコ工作など、多くの方々楽しんで学べる場所を提供しています。そのほか、他都市との交流、施設見学会などを通じ、市民主導によるごみ減量活動の啓発を20年間続けてこられました。

さらにごみを減らすために平成27年10月にピーク時からのごみ半減をめざす「しまつのこころ条例※」を施行し、ごみになるものを作らない・買わない「リデュース（発生抑制）」と再使用



紙すき教室では、子どもとの会話も楽しみながら。

する「リユース（再使用）」の「2R」をさらに推し進め、ごみを出さないライフスタイルへの変換を呼びかけています。

とはいえ、ごみをゼロにすることは難しいこと。出てしまったごみは、「2R+1R」の「1R」である最後の砦、「リサイクル（再生利用）」して、できるだけ燃やすごみを減らすことが大切です。『めぐるくん推進友の会』は、この「リサイクル」を柱に、ごみを減らさなければいけない理由や、ごみの減量方法について体験学習教室などを通じてわかりやすく伝えています。

平成28年度実施予定のごみ減量啓発ブース出展・体験学習教室は、約20回。体験学習教室では、ごみを捨てる前にもう一度なんらかの形で利用できないかを考え、牛乳パックからのハガキづくりや廃食油からの石鹸づくりなどのワークショップを行っています。「紙すきやせっけん作りを体験してもらうだけでなく、児童と会員との会話も大切にしています。雑談の中

1つつ丁寧

取材時の児童館での体験学習教室は、牛乳パックを再利用したハガキを作る紙すき教室でした。みんなが給食で飲んだ牛乳パックがトイレトーパー「めぐレット」の原料に使われていることや、ごみに関することの説明を受けたあと、体験開始。牛乳紙パックを使った紙すきの事前準備は、とても大変な作業です。飲み終えた牛乳パックを水洗いして、水に浸したり、炊いたりして、再生バルブを作るまでに、4～5日かかります。「以前はバルブをつくるという事前準備も、すべて自分たちで行っていましたが、今はあらかじめ先生にその作業工程を説明し、児童のみなさん



子どもたちの作品。手紙を書くきっかけになればとの思いも込める。

未来のために、楽しくごみ減量

7月30日には、20周年記念シンポジウム『世代を超えて、楽しくごみ減量！～京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会20周年記念～』が京エコロジーセンターで行われました。

めぐるくん推進友の会誕生の時に大学に入学され、現在第一線で廃棄物の研究を続けておられる浅利美鈴先生（京都大学地球環境学堂 准教授）が基調講演とシンポジウムのコーディネーターを務められ、「これからのごみ減量に大切なことは、世代を超えて楽しく、協力しあっていくこと」と、まさに『めぐるくん推進友の会』の活動そのものの取組の重要性をお話しされました。

核家族化や少子高齢化が進み、地域で世代を超えたふれあいの機会が少なくなっていると言われる中、『めぐるくん推進友の会』の活動は「ごみ減量」というキーワードでの世代間交流となっています。

※「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」の愛称

から、少しでもごみ減量に関する知識を深めてほしいと思い、いろいろな話をして、コミュニケーションを取るようにしています」と、副会長の高橋かつ子さん。講座や教室を長年継続されている秘訣は、ここにあるのかもしれませんが。



山内会長（一番右）、高橋副会長（右から二番目）をはじめ、活動を担うメンバーの皆さん（中山児童館での活動にて）

と一緒に準備してもらっていますよ。」と、高橋副会長。参加した児童は、真剣に説明を聞き、会員との会話を楽しみながら世界で1つだけのハガキ作りを楽しんでいました。「いつも家で飲んでる牛乳パックが使えるから、これからは家でもハガキを作りたい」と、早速活動の広がりを見せていました。

20年という月日の経過は、赤ちゃんが生まれてから成人するのと同じ時間です。『めぐるくん推進友の会』のメンバーも、当初の会員数約800人から現在は50人程にまで減少し、うち約20人の会員が中心となって活動を行っています。高齢化やメンバーの減少などの現実にも柔軟に対応し、できることを1つつ丁寧に活動されている姿から、会員のみなさんの「ごみを減らしたい」という強い意志が伝わってきます。

「新・京都市ごみ半減プラン」に掲げられた「平成32年にピーク時からの『ごみ半減』39万トン以下にする」という必達目標まであと5年。これからは多くの世代に「ごみ減量」の大切さを楽しく伝える、市民目線の啓発活動はまだ必要です。

「市民目線での活動は大切。『京都市ごみ減量推進会議』や『地域ごみ減量推進会議』そして行政とも連携しながら、これからの活動を模索していきたい」と会長の山内さん。今後の活動にも目が離せません。



20周年記念シンポジウムの様子

前田綾（平成28年8月19日取材）

Hand in Hand



鹿肉料理開発で鹿被害削減！

～京都光華女子大学 京しかミーツのチャレンジ～

地球温暖化や鹿の天敵であったニホンオオカミの絶滅、そして人間のライフスタイルの変化等が影響し、近年、鹿の頭数が急激に増加しています。それに伴い、交通事故や農作物被害など鹿による被害も拡大しつつあります。今回は、このような鹿被害対策について、鹿肉料理普及の視点から取り組む、京都光華女子大学の学生団体「京しかミーツ」にお話を伺いました。

鹿肉はおいしくて、シカもヘルシー

鹿被害が急増する背景には、狩猟で鹿を捕獲しても、ほとんどが廃棄されている現状があります。つまり、鹿肉が牛肉や豚肉のように市場に出回っていないので、それで収益を上げることができない現状があります。もし、「鹿肉はおいしい、ヘルシー」ということがもっと広く認知されれば、需要が増えて鹿対策も加速する！「実際に、牛肉や豚肉よりも高タンパクで、低カロリーなんです！」とメンバーは力を込めました。

座学と実学を通じて鹿を学び、鹿肉料理を開発

鹿がどこから来たのか、鹿はどのように繁殖しているのか等、京しかミーツのメンバーは鹿との歴史やその生態についても、専門家を交えて勉強しています。そして、大学の調理実習室で鹿肉をおいしく食す料理を日々研究しています。これまでに、味付けした鹿肉をやさしくパイ生地で包んだ「しかミーツパイ」や、スコッチエッグのミンチ肉に鹿肉を使用した「しかッチエッグ」など多くの鹿肉料理を開発してきました。



おいしい鹿肉料理を研究する学生メンバー

鹿肉を通じた地域連携活動

自分たちで開発した鹿肉料理を少しでも多くの方に知ってもらうために、広く市民の方を対象とした料理教室「エコしかクッキング」をはじめ、地域のイベントへの出店な

ど、これまでたくさんの地域連携活動を実践している京しかミーツ。特に、昨年の夏から秋にかけて活動した「のせでんアートライン妙見の森2015」の活動では、活動紹介DVDの作成および1か月間の能勢電鉄里山インフォメーションセンターでのDVD上映、能勢視察と地元の方との交流会など、多くの関連イベントに参加しました。

「ジビエ×キリン一番搾り = 里山料理コンテスト」にて優秀賞受賞

「京都・滋賀学生料理コンテスト2016 ジビエ×キリン一番搾り = 里山料理コンテスト」に出場し、みごと優秀賞を受賞！「私たちの研究成果が大きな大会で認められたんです。」メンバーの1人は笑顔で説明してくれました。今回の評価ポイントは、制限時間1時間で調理から盛り付けを仕上げること、材料はジビエと京野菜か近江野菜を使うこと、キリン一番搾りに合うアイデア料理であること。「ごろごろ鹿肉とたっぷり野菜の鹿春巻き」は、審査員の方々が「ビールと相性バッチリ！」と高く評価して下さったとか！

京都光華女子大学「京しかミーツ」のチャレンジはまだまだ続きます。



「ごろごろ鹿肉とたっぷり野菜の鹿春巻き」で優秀賞受賞

高野拓樹（平成28年8月17日取材）

なごみ日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●● 第11回 「京野菜に込められた願い」 ●●

食欲の秋がやってきました。今は1年を通して様々なおいしい野菜や果物を食べることができると便利な世の中ですが、それでも旬を味わう贅沢、これにはやはり敵いませんよね。季節感あふれる美味しさ、京野菜の大きな魅力なのではないでしょうか？

和食文化を支える京野菜。上賀茂で京野菜を生産されている田鶴均（たづる ひとし）さんにお話を伺うことができました。朝4時半から暗くなるまで畑作業、その後は京料理店などに配達…と毎日京野菜に愛情を注ぎ続けていらっしゃいます。京野菜がおいしい理由に水はもちろん、上質な土があげられるそうです。古都、京都。都人たちの排泄物も多く、自然と土が肥えていったのだとか。その話を聞いた田鶴さんは、その原点に戻れないかと考え、大学や施設と協力し、生ごみ等を原料に作られた肥料を買い取り京野菜を育てていらっしゃいます。そして田鶴家で出た生ごみは全て畑に還元。理想とされている、京都の地域内での循環にはまだまだ難しい問題も多いということで

すが、それでもごみ問題を考えていくことは、食文化を考えていく上で避けては通れない問題だと田鶴さんは話されます。

また、20年以上前から京都大学の学生たちに畑の一部を貸し、学生自らが野菜を育て、販売する過程を経験するサークル「農業交流ネットワーク」の活動を、サポートされています。京野菜は決して特別なものではなく、昔から地域に根ざしてきたあたりまえのものとしてより広がるように、農家は、栽培方法も含め、利便性だけでなく環境を汚染しないやり方を守るべきで、ごみの問題なども考えていく責任があるのだと学生にも話されているそうです。そうすることで、ものを食べる時に、もう1つ奥まで考えられるようになるのではないかとただおいしいだけではなく、こうやってできているのだという背景を想像し、食の大切さを理解してもらえれば…そんな願いをこめて。

もうすぐ、すぐきの漬け込みが始まる季節。そんな思いを胸に、私たちもおいしく頂きたいですね。



KBSラジオ「栢木寛照熱血説法 心のラジオ」にゲストでお越しいただいた田鶴均さん（右）、栢木寛照さんと一緒に。

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」、ラジオ「森谷威夫のお世話になります」などに出演中。

京都市ごみ減量推進会議 HISTORY

4

当会議は、平成28年11月に設立20周年を迎えます。

2Rで一步先行く、ごみ減量「もっぺん」の功績

まずは、京都市ごみ減量推進会議のホームページをご覧ください。トップページに「この指止まれ！」と言わんばかりに人差し指を掲げたイラストと「もっぺん」のロゴが目に入る。京のお直し屋さんとリユースショップの情報サイトだ。掲載されているショップは200店余。家具、革製品、宝飾品等々、多彩な業種でエリアも京都市全域にわたっている。

3Rが浸透し、リサイクルが定着しつつあった2007年、京都市のごみ戦略に呼応し、「2R型エコタウン構築事業実行委員会」という新たな事業が加わった。

3Rより一步先へ。地域に根ざしたリデュースとリユースを提案するのを目的とした立ち上げであった。その中核となる事業として掲げられたのが「リペア・リメイク情報発信」である。取組は迅速だった。小委員会が形成され、店舗取材や調査が始まった。環境活動をする学生さん、さらにデザイン系の学生さんが加わり、事業の名称やロゴやアイコンの意匠が具体的に形になった。幸いなことに京都には染物など、お直しを生業とする職人さんの存在があり、快く協力を得ることができた。リーマンショックの影響下、蔓延する節約ムードもリペア・リメイクへの理解を後押しした。マスメディアでも採り上げられ、市民からの関心も高まった。

物を簡単に捨ててしまうのではなく、長く使うことでごみは減る。「もっぺん」の考えは、「リサイクル」がごみ減量策の主力とされるなかで先進的な事例として注目を集めた。全国からの問合せが相次いだ。

情報サイト「もっぺん」は、検索も容易で各ショップの情報がわかりやすく、開設以来、訪問が引きも切らない。サイトだけでなく、市役所前フリーマーケットには年に3回、3～4店舗が出展し、修理の相談などに対応している。

使い捨ての生活スタイルに「ノー」と声を上げ、ウェブサイトというかたちで、「直しながら、物と付き合うよろこび」を身近にした「もっぺん」の功績は計り知れない。

取材協力：野村直史氏 森田知都子（平成28年8月8日取材）

地域活動レポート

～中京区地域ごみ減量推進会議～

地域^{たから}の財を活かし、楽しく、特色ある活動を広げたい

中京区地域ごみ減量推進会議（以下、中京区地域ごみ減）は、区単位でごみの減量を進めるため、平成24年度に設立されました。設立当初は13の地域ごみ減量推進会議（以下、地域ごみ減）で活動をスタートさせ、23学区全ての元学区に地域ごみ減を立ち上げることを目標にしていました。中京エコまちステーション（以下、エコまち）と協力して地道な立ち上げ支援を行ってきた結果、平成25年度から毎年設立学区が増え、昨年（平成27年）度、遂に23学区全てに地域ごみ減が誕生しました。今回は、全学区に地域ごみ減が立ち上がった経緯や、それを記念して開催されたエコイベントなどについて、中京区地域ごみ減会長の川崎元彦さんにお話を伺いました。

全学区に繋がったエコのバトン

中京区は、オフィスや商店が立ち並び賑やかな通りや多くの観光客が訪れる名所旧跡が点在し、地域によって町の様子は様々です。23学区全てに地域ごみ減を立ち上げるためには、それぞれの地域の特色を理解し、現状に合った形で提案していくことが大切でした。また、京都市では元学区ごとに自治連合会や保健協議会などの活動が根付いているため、新たに地域ごみ減を立ち上げるメリットは何なのか、という声も聞かれました。しかし、どの学区も“ごみを減らしたい”という気持ちは同じです。使用済てんぷら油の回収やコミュニティ回収など、具体的な行動とその成果を提示することで、徐々にごみ減量の輪が広がっていきました。更に、ふれあいまつりなどの行事で各学区の会長同士が「自分たちはこんな活動をしているよ」と情報交換を行うことで、自発的に活動が広がることも期待できます。「エコまちの皆さんが、各学区に丁寧に説明して回ってくれたことも、全学区立ち上げを後押ししてくれました」と、川崎会長はエコまちの協力にも感謝を惜しみません。中京区をもっと良くしたいという皆の気持ちがあってこそ、4年間で目標を達成することができたのではないのでしょうか。



取材中にも、お茶や工作に詳しい人財を発掘することができました。川崎会長（中央）と協力者の竹村珠子さん（右側）と三輪直佳さん（左側）。

地域におさがりの輪を広げたい

区単位での活動基盤が整った中京区地域ごみ減では、今年の5月5日に、地域で子ども服や子ども用品を循環させようというエコイベント『おさがり広場ともっぺん広場』を開催しました。このイベントは、竹間学区地域ごみ減が毎年5月に行っている子ども服の無料交換会を発展させたもので、今回は子ども服などの交換に加え、おもちゃなどの修理コーナー（もっぺん広場）や子どもたちが楽しく参加できる工作コーナーも設けました。市民しんぶん中京区版などを通して、家庭で不要になった子ども服の持ち込みを呼び掛けたところ、900kg以上の服が集まりました。これらをサイズごとに分けたり、傷や汚れを確認する作業



「おさがり広場ともっぺん広場」の開催に先立ち、中京区地域ごみ減23学区設立記念セレモニーが行われました。全学区の会長と御来賓の皆様で記念の1枚。

は、中京区地域ごみ減のメンバーが数日をかけて行いました。イベント当日にも子ども服やおもちゃなどを持って来てくれる参加者が多く、会場となったこどもみらい館4階はたくさんの人で賑わいました。スタッフとして参加した方は「必要がなくなったら、また持って来て欲しい。地域で“おさがりの輪”が広がれば良いですね」と笑顔を見せてくれました。運営体制において課題も見つかりましたが、昨年の3倍、780名の参加者に恵まれた『おさがり広場ともっぺん広場』。「自分たちの地域でもこんなイベントをやってみたい」という声も聞かれ、中京区地域ごみ減を挙げて実施したこのイベントは大成功を収めました。

楽しみながら活動続けるには

中京区地域ごみ減では、毎年中京区ふれあいまつりで環境ブースを出店し、京都市が啓発に力を入れているプラスチック容器包装や紙ごみについての環境クイズを担当するなど、多くの方に活動をアピールしています。昨年度は、「ごみをはかって、まなぶ。はかって、わかる！」という学習会を実施し、家庭から出るごみの量を減らす工夫を学びました。また、中京区地域人財活用事業として中京区内の和食のブロに「おせち料理」のエコクッキングの講師を依頼、野菜は皮まで美味しく調理し、食材を全て使い切るなど、ごみを出さない方法を教えて頂きました。今年度は、コミュニティ回収で集められた古紙のその後を学ぶため、古紙の中間処理施設の見学や、中京区で絞り染めをされている職人さんにふるしき染めのワークショップをお願いし、出来上がったマイふるしきを使って、ふるしき活用講座を開催するなど、地域の特色を活かしたごみ減量活動の実施を予定しています。これからも、地域の人々との繋がりを大切に、地域に根差した、そして一人でも多くの方が参加したくなるような魅力ある活動にするために、中京区地域ごみ減の挑戦は続きます。



京料理の澤野輝彦氏（龍池学区地域ごみ減会長）を講師に迎え、食ベキリ、使いキリを実践するためのプロの技を学びました。

松村香代子（平成28年8月10日取材）

今年の中京区ふれあいまつりは、10月30日（日）午前10時から午後3時まで、京都市立中京中学校グラウンドにて開催されます。ぜひ、お越し下さい。